

公害裁判そして今日に至るまでの公害をめぐる社会的プロセスが議論されました。対象にどうアプローチするか、どのように公害を捉えるのか両者は異なっていますが、公害地域の今を知る興味深い報告でした。調査方法、研究方法といった意味においても刺激的な報告でした。

このように、2011～2012年の報告を簡単に振り返ってみてもわかるのは、社会学が、対象やアプローチを限定することなく、実に多様な角度から、「社会なるもの」を紐解いているということです。取り上げている対象は決して同じではないけれども、しかし、論じようとしているのは、それぞれが大きく異なっているわけではない。こういったことに気が付くと、そこに新しい発見を見出せそうな気がします。私は、地域調査研究会がこれからも「知の創造」の場であり続けてほしいと思います。そのためにも、ぜひ、みなさんに、「知の創造」に携わっていただければと思います。

IV 研究報告

(ポスト) 工業化と制度の社会学に向けて

名古屋大学 専任准教授
河村 則行

現在、グローバリゼーションのもとで、規制緩和、オープン化が進み、市場による調整の比重が高まっており、国家の規制や団体間の協議などの制度による調整は撤廃されるべきであるというアメリカ型の資本主義・自由市場経済への収斂が起きている。日本でも、経済の停滞の原因を規制の多さに求め、規制撤廃・規制緩和により、市場的調整の比重を高め、**flexibility** 柔軟性、**mobility** 移動性を高めるべきだという声が強い。

ここで、市場による調整と制度による調整との関係は複雑である。市場原理とは、移動の自由、選択の自由、自己責任のもとで、オープンで、国籍をとわず、誰もが市場＝取引に参加でき、そこで競争することであり、そのメリットは、希少な資源の効率的配分や、生産方法を改善し、生産コストを下げる、新製品を開発し、新たな需要を創造するというイノベーションを生み出すことにある。しかし、匿名の見知らぬ人との市場の取引では取引相手が騙すリスクがあり、多くの選択肢があるなかで、どのように取引相手を探すのか、その製品が信頼できるものかどうかを確かめるコスト（取引コスト）を削減しなければならないが、その取引コストの削減の方法は多様である。ヨーロッパでは、国民国家による公共的な枠組みによって、形式化したかたちで、取引の信頼性は確保され、匿名の相手でも取引が可能になる。North(1981=1989)らは、西洋の資本主義の勃興は、所有権、金融・信用制度など、国家の制度が確立されたことにその原因を求めている。これは国民国家という境界を特権化する視点であり、誰もが参加でき、市場の参加者は具体的社会関係から切り離された抽象的個人である。なお、ここでいう制度とは、諸主体間で他者の行動につ

いての不確実性を減らし、信頼できるコミットメントを可能にするものであり、その保証の仕方は制度によって異なる。それに対して、籠谷直人によれば、中国では、公共的な枠組みではなく、血縁などの私的ネットワークなかで、取引の信頼性を確保する。国境を越える商人のネットワークとして、市場の参加者は、社会的次元での具体的人間であり、領域性や国境にはとらわれず、見知らぬ間でも、同郷性の確認だけで、取引が発生する。日本では、市場は、完全な自由競争ではなく、制度によって仕切られた市場である。資格、身分証明書、会員権など制度的に権威づけられたものによって取引相手の信頼性、品質が保証される（籠谷 2002）。特定のカテゴリーの人に参加資格があり、誰もが市場に自由に参加できるわけではない。

ヨーロッパとアジアの「比較経済発展論」を展開する斎藤修によれば、中国の近世は、政府による規制がなく、自由に参加、競争できるという点で、市場経済が発達した社会であるが、工業化をもたらさなかった。日本では、国家だけではなく地域単位の制度によって工業化が推進された（斎藤 2003）。工業化の推進において、インフラの整備などでは国家の役割が大きいが、それだけでは不十分で、各地域において取り組まれた制度が重要な役割をはたした。現実に日本の工業化を支えたのは、産地の地域間競争であり、市場に対する地域の積極的対応であった。地域の協同組合・同業組合が、品質検査を共同で行い、粗製濫造問題へ対応したり、地域で技能形成の制度や、職業学校をつくっていた。どの商品にニーズがあるのか、技能のノウハウなどの情報収集をするためにネットワークを形成していた。また、イギリスの工業化は、資本集約型であり、日本の工業化は労働集約型であったが、単なる低賃金にとどまらず、スキルの蓄積があり、中小企業の強靱さが日本の工業化を支えたことが説明される（斎藤 2008）。日本の工業化の特徴は、西洋からの技術移転に始まり、工業製品の修理から模倣品をつくり、国内で生産をはじめたこと、工業製品の輸入代替から輸出振興に転じたことにある。

そして、需要構造や生産技術が変化するポスト工業社会では、工業社会とは異なる制度が必要になるのではないかと考える。生産技術が標準化された、量産型の汎用品ではなくて、まだ技術が標準化されず、特殊な技術で生産される製品、特定のクライアントのための製品、汎用製品と異なる精密度や個性をもった製品の生産が行われるからである。汎用の規格量産型の工業製品は、需要が予測可能で、品質は確実であるが、そこでは、需要の不確実性、品質の不確実性が増大し、どのように取引の信頼性を確保するのかわで、新たに制度の構築が必要になる（Storper and Salais 1997）。例えば、工業的な生産とは異なる有機農業では、単に生産力、生産性だけを増大させるだけでなく、製品がどのような方法で生産されたのか、環境負荷は小さいのかなどの質的情報のやりとりが重要で、生産者と消費者との双方向のコミュニケーションによって品質が定義されることになる。知識経済では、知識労働者、技術者や専門職の比重が高まるが、消費者の評価だけではなく、企業の枠を超えた、専門家集団のコミュニティでの評価が重要になる。

重要なのは、ポスト工業化のパターンは多様であり、それに応じて制度による調整のあり方も多様で国や地域によって異なることである（Crouch and Streeck, eds. 1997）。アメリカは、製造業はアジアに委託し、金融や情報通信産業中心の産業構造への転換が進んでいることから、市場主導型の調整になる。ドイツは、高品質・高賃金の経済システムであり、アソシエーション（団体）間の公式の協議としてのコーポラティズムで、労働市場が

調整される。イタリアでは、インフォーマルなネットワークとコミュニティによって、協力と競争のバランスが保たれ、中小企業のフレキシブル・スペシャリゼーション（柔軟な専門化）の経済を支えている。その作業工程では熟練工の技能や知識が重視され、地域コミュニティで、生産要素を再配置したり、不足している資源を補完し、技術や技能を伝承していく。それは、完全に自由な市場ではなく、コミュニティに規制された市場である。日本では、大企業と中小企業のコーディネーションで、多品種大量生産の経済を支えている。密な情報交換によって品質管理と安定供給が確保される。北欧では、教育制度に力をいれ、職業訓練を積極的におこなう積極的労働市場政策、フレキシキュリティの政策がとられ、労働組合が移動の媒介機関となっている。それにより、労働の流動化をもたらし、知識経済化としてのポスト工業化に成功した。労働市場の規制を撤廃すれば、労働力の配分が自動的になされるのではない。

グローバリゼーションとポスト工業化のもとで、市場による調整を補足する制度による調整のあり方は変化しており、その変化のメカニズムとその制度の多様性を理論的に実証的に明らかにすることが、筆者の現在の研究課題である。グローバリゼーションの進展で、資本、労働力などの生産要素の資源は自由に移動する。先進国では大企業の製造拠点は移転し、製造業の衰退・空洞化が危惧されるなかで、どのような生産システムと制度を構築していくのか。筆者は、地域の雇用を生み出すものとして、中小企業や第一次産業などの地域に根ざした産業に注目したい。それは、技能・知恵がその地域に歴史的に継承され、蓄積されることで、他の地域では容易に模倣できない、そこでしか生産することができる産業である。日本では職人などスキル形成の場はどこか（家族か企業か、地域か）、どのように技能が継承されたのか、されずに断絶したのか、そのスキルは企業のみで評価されるのか、企業の枠をこえて社会的に評価されるのかは、社会学的に重要な問題である。

文献

- 籠谷直人, 2002「アジアの中で日本を捉える」 川勝平太編『グローバル・ヒストリーに向けて』藤原書店
- 斎藤修, 2003「市場経済の類型学と比較経済発展論」 篠塚信義, 石坂昭雄, 高橋秀行編著『地域工業化の比較史的研究』北海道大学図書刊行会
- 斎藤修, 2008『比較経済発展論：歴史的アプローチ』岩波書店
- Crouch, C. and Streeck, W. eds. 1997, Political economy of modern capitalism : mapping convergence and diversity, SAGE Publications(=山田鋭夫訳『現代の資本主義制度：グローバリズムと多様性』NTT出版, 2001)
- North Douglass, C., 1981, Structure and Change in Economic History (＝中島正人訳『文明史の経済学：財産権・国家・イデオロギー』春秋社, 1989)
- Storper, M and Salais, R, 1997, Worlds of production, Harvard University Press.